

目的：男女大学生は衣生活に高い関心を持っていると言われている。一方、生活意識にも様々な特徴が見られ、生活意識と衣生活との関係も示唆されている。そこで、本調査は、生活意識・行動を類型化し、適切な衣生活行動との関係を明らかにすることを目標に調査を実施した。また本報では、性差や体形・身長を意識差を中心に衣生活行動の項目に出現した差異について検討し、生活意識や衣生活の基本的枠組みを求めることを目的とした。

方法：昭和62年12月中旬・岡山県下の男子大学生104名・女子大短大生184名を対象に質問紙調査法による集合調査を実施した。主たる調査項目は、衣生活に対する感情や行動に関するもの49項目を中心に体形、興味、生活時間などである。主要項目の尺度は、5段階法を用いた。分析には、因子分析、数量化Ⅱ類、T検定、分散分析、パス解析を用いた。

結果と考察：①「アダルトな服装が似合う」と身長が高いと思う男女ほど共に考えている($P < 0.01$)。②「会社やデパートの制服」や「値が高くてもブランド物を買うこと」、「遊び着と通学服の区別」を背が高いと自分で思っている男子は肯定している($P < 0.10$)。③女子では背が高いほど、「タンクトップでの通学」をおかしいと思ひ、「自分と同じ服装」を不愉快と思っている($P < 0.10$, $P < 0.01$)。④男女差では、女子の方が「母親の影響が強い」と考え、「服を変えることは気分転換になる」とし、男子の方が「アダルトな服装が似合う」と考えているようである($P < 0.01$)。⑤体形では、女子で太めと思ひている方が「毎日何を着るか」と悩み、「地味」で「注目されたくない」と考えている。以上のように体形が男女共に衣生活意識に関与し、左右されていることがみとめられた。